

191 食 塩 中 毒

担当	検 査 チ ャ ー ト			
家畜保健衛生所	(1) 疫学調査 (2) 臨床検査 (死亡畜、と畜等) → (3) 剖検 (飼料) (血清、脳)			
病性鑑定施設	(4) 生化学分析 (5) 病理組織検査 (+) (-) (+) (-)			
判定・結果	(+)	(-)	(+)	(-)
最終判定	判定は総合的に判断する。			
その他				

→類似疾病検査

- ① 70 豚コレラ ② 75 トキソプラズマ病

(1) 疫学調査

- ① 同一豚房内で発生
- ② 食塩含量の高い飼料の給与
- ③ 飲水給与量の不足
- ④ 暑熱

(2) 臨床検査

- ① 極度の渇き、疝痛、下痢、食欲不振、口腔の発赤乾燥、多尿
- ② 神経症状(旋回運動、間歇的痙攣、泡沫性流涎、てんかん様発作、呼吸困難、咽喉頭・舌の麻痺)

(3) 剖 検

特異的所見はないが、塩素濃度測定用の脳組織の採材を行う。

(4) 生化学分析

- ① 血清ナトリウムイオン濃度の測定:上昇する(ドライケミストリーあるいは電極法)。斃死例では脳組織で測定(病変の程度と相関する。)¹⁾
- ② 血清または脳組織の塩素イオン濃度の測定:上昇する(ドライケミストリー)。ただし、ナトリウムに比べ病変との相関は低い^{1),2)}。
- ③ 必要な場合は、原因飼料のナトリウムイオンおよび塩素イオンを定量する³⁾。

ナトリウムイオンの正常範囲は豚で 135 ～ 150mM、牛で 132～152mM。これを超える場合、本症を疑う。

(5) 病理組織検査

- ① 大脳皮質の充血、水腫
- ② 脳血管周囲の好酸球浸潤、血管内皮細胞の腫大

(参考文献)

- 1) Osweiler, G.D. & Hurd, J.H.: J. Am. Vet. Med. Soc. 165, 165-167 (1974).
- 2) Wells, G.A.H., et al.: Vet. Rec. 114, 631-635 (1984).
- 3) 飼料分析法・解説. 科学飼料協会(2004).